



# 日本のウイスキー+ジン (+他スピリッツ) 蒸留所・生産者のリスト@2020+歴史上のウイスキーブランド総覧

## Complete List of Whisky+Gin (+other spirits) Distilleries/Producers in Japan 2020 + Historical Whisky Brands

ed.3.1 @2020.08.20/fk

掲載方針: ●ウイスキーを製造している業者(蒸留器は、ポットスチルだけでなくハイブリッドや焼酎蒸留器などを含む。蒸留設備を持たずブレンドで販売しているウイスキー免許保持者も含む。流通のPBブランドは含まない。) ●ラムやジン(穀物原料の蒸留洋酒)も掲載。 ●ブランデー、グラッパ、カルバドスなど(ブドウやリンゴなど非穀物原料の蒸留洋酒)は非掲載 ●近年のウイスキー免許取得に関しては国税庁の公開済み情報による ※背景黄色はed.3から追加した生産者、青文字はed3から追記・修正した情報

蒸留器: ■PS=スコッチウイスキーで一般的な「初留1基+再留1基」で1対になったポットスチル 英国製・日本製のほかポルトガル製も 2基1対の場合は「PS」、それを超える場合には「PSx(蒸留器数)」と表示 ■CS=大型の連続蒸留塔 ■HB=ポットスチル1対ではない蒸留器(Kettleと多段Columnがセットになった、いわゆるハイブリッド蒸留器など)で、独・伊・仏・中などの外国製のもの ■OT=日本製の蒸留器でポットスチル1対ではないもの(焼酎の単式蒸留器、小型の連続蒸留器など)、または蒸留器なし(ブレンドなどによる製品) ■UK=調査の範囲で不明

ウイスキー(スピリッツ)創業年: ■ウイスキー(またはラム、ジン)にかかわる免許取得年、蒸留所竣工年、蒸留開始年、製品販売開始年などを表示しては基準は一定していない ■会社創業年とは異なる場合が多い ■UK=調査の範囲で不明



名称 (北から県別)	銘柄	Brand (or Company) name	種別	蒸留器	ウイスキー(スピリッツ)創業年	住所 (部分公開)	コメント
北海道	ニッカウヰスキー 余市蒸留所	Nikka	ウイスキー	PSx6	1934	余市郡余市町	寿屋を辞した竹鶴政孝がスコットランドに近い理想の地として余市を創業の地に選び1934年に大日本果汁株式会社として設立 初めてのウイスキーの発売は1940年 現在ポットスチルは6基で石炭直火式 余市も宮城峡もニッカのポットスチルには「紙垂(しで)」「神棚などに使われる白い紙飾り」が付けてあるのは竹鶴政孝以来の伝統 ニッカウヰスキーの「キ」は「イ」ではない。ニッカは「ウヰスキー」、サントリーは「ウイスキー」この辺りは→ <a href="http://www.kitasangyo.com/Archive/mlmg/melmaga153.html">http://www.kitasangyo.com/Archive/mlmg/melmaga153.html</a> ニッカはスコットランドで「ベン・ネヴィス」蒸留所を所有
北海道	札幌酒精	Sapporo	ウイスキー	OT	UK	札幌市西区発	焼酎メーカー 昔からの地ウイスキーブランド
北海道	堅実実業 厚岸蒸留所	(Hokkaido Akkeshi Distillery)	ウイスキー	PS	2016	厚岸郡厚岸町	2016年フォーサイス社の蒸留器設置
北海道	北海道自由ウヰスキー 紅櫻蒸留所	9148	ジン	HB	2018	札幌市南区澄川	伊バリソン社(Barison)製の400L蒸留器 グループ会社にワイナリーがある(北海道自由ワイン株式会社 マオイ自由の丘ワイナリー) 2018年ジン発売
北海道	合同酒精 旭川工場	Kitasuisho	ジン	UK	2018	旭川市南4条通	オエノングループ 2018年ジン発売
北海道	積丹スピリット	HOKKAIDO SHAKOTAN GIN KIBOU	ジン	UK	2020	北海道積丹郡	2020年ジン発売
秋田	秋田県醸酵工業	AKITA CRAFT BI GIN	ジン	UK	UK	湯沢市深堀字中	オエノングループ 2019年ジン発売
宮城	ニッカウヰスキー 宮城峡蒸留所	Nikka	ウイスキー ジン ウヰッカ	PSx8 CS	1969	仙台市青葉区二	ポットスチルは8基 余市と合わせるとニッカのポットスチルは合計14基 西宮工場にあった連続蒸留塔(Coffey Still2機、1962年製)も1999年に移設 ニッカとアサヒは創業時から縁があるが、2011年から完全子会社に 英国の専門誌DrinksInternationalが毎年発表する世界のスピリッツランキング「Millionair Club 2016」では、日本ウイスキーのトップはサントリー角瓶で350万ケース(1ケース=9リッター)、2位がブラックニッカで240万ケース 「ニッカカフェジン」「ニッカカフェウヰッカ」も製造
宮城	MCG クラフトジン蒸留所	Keyaki	ジン	HB	2020	大崎市三本木	清酒の蔵元「新澤醸造店」が設立 社名のMCGはMiyagi Craft Gin
山形	金龍 遊佐蒸留所		ウイスキー	UK	2018	酒田市黒森字	焼酎の蔵元 2018年免許取得し遊佐蒸留所竣工 早ければ2021年に商品化の計画

名称（北から県別）		銘柄	Brand (or Company) name	種別	蒸留器	ウイスキー (スピリッツ) 創業年	住所 (部分公開)	コメント
福島	笹の川酒造 安積蒸留所	チェリーウイスキー 山桜	Cherry Yamazakura	ウイスキー	PS OT	1946	郡山市笹川1丁	清酒の蔵元 昔からの地ウイスキーブランドだが、あらたに2016年に三宅製作所のポットスチルを新設して本格的なウイスキー製造に参入 肥土伊知郎氏が東亜酒造の原酒を買い取ったとき貯蔵庫を提供して、ベンチャーウイスキーの創業を助けた
新潟	八海醸造		(Hakkaisan)	(ウイスキー免許取得)	UK	...	南魚沼市長森	2016年4月、ウイスキー免許取得 2019年よりニセコに蒸留所建設開始、2020年末の稼働を目指す
新潟	新潟麦酒	忍	Shinobu	ウイスキー	UK	2018	新潟市西蒲区越	「越ノ忍」は輸出用の銘柄
新潟	新潟小規模蒸溜所			ウイスキー	PS	2019	新潟市江南区南	印鑑販売の(株)大谷が中心となり新潟県内の複数企業が出資して設立 2020年秋からの蒸留を目指す
新潟	越後薬草	80GIN	80GIN	ジン	UK	2020	上越市大字小塚	本業は酵素を中心とした健康食品のメーカー 2020年ジン発売
茨城	木内酒造 額田蒸留所			ウイスキー	HB	2015	那珂市額田南郷	清酒とクラフトビールのメーカー 2015年10月ウイスキー免許取得 蒸留器はハイブリッド
茨城	木内酒造 八郷蒸留所			ウイスキー	UK	2020	石岡市須釜1300	2020年春からウイスキー蒸留開始
茨城	明利酒類	プレミアムクラフトジン「和GIN」	Wa Gin	ジン	OT	2017	茨城県水戸市元	清酒や焼酎の蔵元 2017年ジン発売
群馬	美峰酒類	クラフトジン歌川	Utagawa	ジン	UK	2019	群馬県高崎市歌	清酒や焼酎の蔵元 2019年ジン発売
長野	本坊酒造マルス信州蒸溜所	マルス、岩井、ほか	Mars et.al.	ウイスキー	PS	1949 1985	上伊那郡 宮田村	本坊酒造のウイスキー免許取得は1949年 1960年に鹿児島から山梨に蒸留設備を移設、1985年に信州工場を新しく設立して山梨から免許を移動 このとき設置した蒸留器は岩井喜一郎(竹鶴をスコットランドに送り出した摂津酒造の役員だったが、当時は本坊酒造の顧問。本坊酒造の元会長の本坊蔵吉の大阪帝国大学の恩師であり、岳父であった縁)が竹鶴ノートを元に設計 ウイスキー需要低迷で1992年から18年間蒸留を停止していたがジャパニーズウイスキーの世界的評価の高まりとともに2011年から蒸留再開 2014年にポットスチル(三宅製作所製)を更新
長野	養命酒製造 駒ヶ根工場	香の森(かのもり) 香の雫(かのしずく)	Kanomori Kanoshizuku	ジン	UK	2019	駒ヶ根市赤穂16	養命酒の製造元 2019年ジン発売
長野	きよかわ 飯山蒸留所	剣聖 野伏	Kensei Nobushi	ウイスキー	UK	2019	飯山市大字豊田	2019年ウイスキー発売
千葉	須藤本家	富士乃森	Fujinomori	ウイスキー	OT	2019	君津市青柳16番	清酒や焼酎の蔵元 2019年ウイスキー発売
埼玉	ベンチャーウイスキー秩父蒸溜所	イチローズモルト	Ichiro's Malt	ウイスキー	PS	2008	秩父市みどりが丘	肥土伊知郎氏(東亜酒造羽生蒸留所創始者の孫)が2004年に創業 2007年に秩父蒸溜所を設立、2008年から稼働 蒸留釜はフォーサイス(Forsyths)製、モルトミルはAllan Ruddock製、ウォンユパックは木製と本格的な設備 写真資料は→ <a href="http://www.kitasangyo.com/pdf/archive/world-alcoholic/new_whisky_distilleries.pdf">http://www.kitasangyo.com/pdf/archive/world-alcoholic/new_whisky_distilleries.pdf</a> サントリー・ニッカとともにこの10年、ジャパニーズウイスキーの世界的評価を高めた事に大きく貢献したブランド 2013年から自社内でフロアモルティングを開始
埼玉	ベンチャーウイスキー秩父第2蒸溜所	イチローズモルト	Ichiro's Malt	ウイスキー	PS	2019	秩父市みどりが丘	2019年より本格稼働 秩父第1蒸留所から400メートル程離れた場所 蒸留器はガスによる直火式加熱を採用

名称（北から県別）		銘柄	Brand (or Company) name	種別	蒸留器	ウイスキー (スピリッツ) 創業者	住所 (部分公開)	コメント
埼玉	東亜酒造	ゴールデンホース武蔵	Golden Horse	ウイスキー	OT	1946 2016	羽生市西4丁目	清酒の蔵元 1946年にウイスキー免許取得 自社ブランド、生協向けPBブランドなどのウイスキーを生産していたが2000年に民事再生、2004年にキング醸造傘下になってウイスキー製造は停止 2016年に輸入モルトのブレンドで販売を再開 銘柄は昔と同じ「ゴールデンホース」
埼玉	光酒造 鴻巣蒸溜所			ウイスキー	PS	2020	鴻巣市小谷625	2020年1月ウイスキー免許取得。オーナーはマレーシアの実業家。ポットスチルはフォーサイス(Forsyths)製。販売は数年先の予定。
埼玉	マツザキ 武蔵野蒸留所	棘玉	TOGEDAMA	ジン	UK	2020	川越市中福 547	本業は酒類の販売だが2019年スピリッツ製造免許取得、2020年ジンを発売
東京	小笠原ラム・リキュール	小笠原ラム	Ogasawara Rum	ラム	OT	1992	小笠原村母島寺	小笠原村の役場・農協・商工会によって設立された会社
東京	合同酒精	香薫(こうくん)	Koukun	ウイスキー	OT	c1930	中央区銀座6-2	「香薫」というウイスキーを2013年から販売 PBウイスキー(イオンのTopvaluなど)も製造 ウイスキーの製造工場未確認のため本社所在地に掲載 オエングループ旭川工場でも戦時中からウイスキーを製造、1946年に東京工場、また1951年に八戸工場でもウイスキー免許取得 下記の【参考情報1】記載の通り、ネプチューンやコルトなどのブランドでウイスキーを製造していた
神奈川	黄金井酒造	The Japanese Craft GIN 黄金井	The Japanese Craft GIN Koganei	ジン	OT	2018	厚木市七沢769	清酒の蔵元 2018年ジンを発売
神奈川	HUGE NUMBER EIGHT DISTILLERY	NUMBER EIGHT GIN	NUMBER EIGHT GIN	ジン	HB	2020	横浜市中区新港	みなとみらいの複合施設「横浜ハンマーヘッド」内 レストランに醸造所・蒸留所・焙煎所が併設されている
神奈川	横浜バイブル・イング 横浜ジン蒸溜所			ジン	HB	2020	横浜市中区福富	本業はクラフトブルワリーで、2020年中にジン蒸留所+タッブルームを開業予定
山梨	サントリー白州蒸溜所	白州	Hakushu	ウイスキー	PSx16 CS	1973	北杜市白州町鳥居	山崎蒸溜所開設から50年の1973年につくられたサントリー2番目の蒸溜所「白州」ブランドの発売は1994年から 2013年に連続蒸留機を設置してグレーンの製造を開始 山崎に続いてポットスチルを2014年に2対4基増設して計16基に したがって山崎と合わせるとサントリーのポットスチルは合計32基
山梨	南アルプスワインアンドビバレッジ	蜂角鷹、角鷹鷹、石和、ロイヤルオーク、Top Value Whisky	Hachikuma Kumataka	ウイスキー	OT	c2016	笛吹市一宮町上	酒販チェーンの株式会社徳岡が2011年にミネラルウォーターや輸入ワインの重点を行うために設立した会社 徳岡のホームページによれば「スコットランド職人仕立ての「ウイスキー鷹」、山梨県で生産した国産ウイスキーの「石和」 石和はモンデ酒造(下記【参考情報1】参照)で生産 「ロイヤルオーク」は酒販チェーンのリカーマウンテンで販売されるブランド
山梨	サンフーズ葎崎工場	御勅使、富士ヶ嶺、葎崎	Midai Fujigamine Nirasaki	ウイスキー	OT	2017	葎崎市龍岡町下	2014年9月ウイスキー免許取得 「富士山」は輸入原酒をブレンドした商品 サンフーズはタイやベトナムに製造拠点を持つ会社 販売者は株式会社ミレックスジャパン
山梨	井出醸造店			ウイスキー	UK	2020	南都留郡富士河	清酒の蔵元 2020年からウイスキー蒸留開始
静岡	キンディスティラリー 富士御殿場蒸留所	富士山麓、ほか(Ocean Lucky Gold) 陸	Fuji Sanroku Riku	ウイスキー	PSx4 CS	1973	御殿場市柴原田	シーグラム・シーバストの3社合併のキンディスティラリー社として1973年に蒸留所を設立 2002年からキンディスティラリー 輸入バーボン「フォアローゼス」のびん充填も行っている モルトとグレーンの両方を製造 ポットスチルは4基 連続蒸留器は3種 Ocean Lucky Goldは大黒葡萄酒以来の「オーシャン」の流れをくむブランド(【参考情報2】参照) メルシャンが2007年にキンディ傘下になった関係で大型PETボトル入り経済ウイスキーとして少量継続生産 2021年設備増強予定(樽の保管能力2割増、発酵タンク4基・連続蒸留器4基) 2020年ウイスキー「陸」を発売

名称（北から県別）		銘柄	Brand (or Company) name	種別	蒸留器	ウイスキー (スピリッツ) 創業年	住所 (部分公開)	コメント
静岡	ガイアフロー 静岡蒸留所		(Gaiaflow)	ウイスキー	PS	2016	静岡市葵区落合	昔の軽井沢蒸留所の蒸留器を取得 新設のフォーサイズの蒸留器も2016年に導入 2017年蒸留所開業
静岡	十山株式会社 井川蒸留所			ウイスキー	UK	2020	静岡市葵区田代	特種東海製紙が会社分割によって新会社「十山株式会社」を設立 社有林に蒸留 所を建設
静岡	千寿酒造	ザスランジバーウイスキー	THE SLAINTE MHOR WHISKY	ウイスキー	UK	2019	磐田市中泉2914	清酒の蔵元 2019年からブレンドウイスキーを発売
静岡	時之栖			ウイスキー	UK	2020	富士市大淵325	静岡県内でホテル、レストラン、スポーツ施設等を経営 大学跡地に蒸留所とブルワ リーが併設された複合施設を開業
富山	若鶴酒造 三郎丸蒸留所	サンシャインウイスキー 三郎丸 Moon Glow	Sun Shine Saburomaru Moon Glow	ウイスキー	OT	1952	砺波市三郎丸20	清酒の蔵元 昔からの地ウイスキーブランド、一升壺ウイスキーも 2019年醸造製のポットスチル導入
福井	西岡河村酒造	KEYS & BRICKS	KEYS & BRICKS	ウォッカ	OT	2017	福井市笹谷町1	清酒の蔵元 2019年ウォッカを発売
岐阜	玉泉堂酒造	ピークウイスキー	Peak	ウイスキー	OT	UK	養老郡養老町高	清酒の蔵元 昔からの地ウイスキーブランド、一升壺ウイスキーも
岐阜	アルケミ 辰巳蒸留所	アルケミ	Alchemea	ジン アブサン	UK	2017	郡上市八幡町旭	アブサンも製造
愛知	サントリー知多蒸留所	サントリー	Suntory	ウイスキー	CS	1973	知多市北浜町16	サントリーのブレンド原料用グリーンを作っている 2015年に独自ブランド「知多」を発 売 2019年4月、サングレイン株式会社⇒サントリー知多蒸留所株式会社へと社名 変更
愛知	相生ユニビオ	レインボーウイスキー	Rainbow	ウイスキー	OT	UK	西尾市下町丸山	みりん・清酒の会社 愛知酒精の時代からの地ウイスキーブランド レインボー三州ウ イスキー
愛知	清州櫻醸造	キヨス	Kiyosu	ウイスキー ジン	UK	2019	清須市清洲1694	清酒、焼酎の蔵元 2019年ジン、ウイスキーを発売
三重	宮崎本店	サンピース	Sun Peace	ウイスキー	OT	UK	四日市市楠町南	焼酎メーカー 昔からの地ウイスキーブランド かつてのブランドはピース 一升壺ウイ スキーもある
三重	伊勢萬	伊勢神	ISE GIN	ジン	UK	2019	伊勢市小俣町明	清酒、焼酎、リキュールの蔵元 2019年ジンを発売
滋賀	竹廣 ナインリーヴズ蒸留所	ナインリーヴズ	Nine Leaves	ラム	PS	2013	大津市石山平津	竹廣株式会社 同社ウェブサイトの写真によれば蒸留器はスコッチウイスキーの初留 釜・再留釜と同じ構成なので、左の欄ではPSと表示
滋賀	長濱ロマンビール 長濱蒸留所	アマハガン	Amahagan	ウイスキー	PS	2016	長浜市朝日町14	酒販チェーンのリカーマウンテン傘下のクラフトビールがウイスキーに参入 生産能力 40KL/年の小規模クラフトウイスキー 蒸留器はポルトガルのHOGA Still社製 初留・再留ポットスチル各1基 昔のアブサン 蒸留器を思い出させる独特の形状
京都	京都蒸留所	季の美	Ki No Bi	ジン	HB	2016	京都市南区吉野	「ナンバーワンドリンクス」社(日本ウイスキー輸出大手で、ベンチャーウイスキーの独占 輸出権をもつ)が設立 蒸留器はドイツのクリスチャン・カール 日本固有のポタニカル を使ったジン ナンバーワンドリンクス社とウイスキー社(アランウイスキーなどの輸入)はデービッド・ク ロール氏が経営

名称（北から県別）		銘柄	Brand (or Company) name	種別	蒸留器	ウイスキー (スピリッツ) 創業年	住所 (部分公開)	コメント
京都	宝酒造	キングウイスキー・凜	King Whisky Rin	ウイスキー	OT	1919	京都市下京区四	「凜」のほかに昔からの「king whisky」ブランドも小さく併記される ラベルには王冠のイラストとともに「since 1919」と書かれていて左に記載の創業年はこれを採用 サントリーやニッカなどの各種製品のラベルには「since 19xx」と年号が書かれているものが多いが1919年は現在販売されている日本ウイスキーで一番古い 始まりは混成ウイキーだと考えられる かつては福島白河工場で製造していた→下記【参考情報2】参照 現在のウイスキー製造工場は未確認のため本社所在地に掲載 なお 竹鶴政孝をスコットランドに留学させた摂津酒造は1964年に宝酒造と合併している 宝酒造はスコッチウイスキーのトマーチンを傘下に持つ
大阪	サントリー山崎蒸溜所	角山崎	Suntory Kaku Yamazaki	ウイスキー	PSx16	1923	三島郡島本町山	鳥井信治郎の寿屋の創業は1899年 よく知られるように赤玉ポートワイン(現、赤玉スイートワイン)で稼いだ資金を山崎蒸溜所に投入 1923年に着工、24年に竣工 竹鶴政孝(ニッカの創業者)が初代工場長 1929年に初めての商品「サントリー白札」を発売 1924年4月7日、従来の「雑酒」免許ではなく、日本初の「ウイスキー」免許を取得 当時すべての酒に適用されていた製造年度に課税する「造石税」ではなく、蔵出し時点の石数で課税する「蔵出税」を認めさせた 24年竣工時は初留・再留ポットスチル各1基(1対2基、大阪の渡辺銅鉄工所製、今も山崎蒸溜所の建物前にモニュメントとして飾られる) 58年に1対2基増設(計4基) 63年に2対4基増設(計8基) 68年に2対4基増設(計12基) 2013年に45年ぶりに2対4基増設(計16基) 2013年の4基は従来の12基とは別の建屋に収容 英国の専門誌DrinksInternationalが毎年発表する世界のスピリッツランキング「Millionair Club 2016」では、日本ウイスキーのトップはサントリー角瓶で350万ケース(1ケース=9リッター)、2位がブラックニッカで240万ケース 2011年にピームを買収してピームサントリー社に いまや傘下にバーボン、スコッチ、カナディアン、アイリッシュ、ジャパニーズの5つすべてをもつ
大阪	サントリー 大阪工場	サントリー「六(ROKU)」 サントリー「白(HAKU)」 サントリー「翠(SUI)」	Suntory Roku Suntory Haku Suntory Sul	ジン ウオッカ ジン	CS	1919 (工場設立年)	大阪市港区海	寿屋の創業1899年の20年後から稼働している量産工場 角瓶(ウイスキー)、ブランド、リキュールなどの充填をおこなっているが、単式蒸留器や連続蒸留器ももってリキュール原料などを製造 2017年に「六(ROKU)」、2020年に「翠(SUI)」を発売
兵庫	江井ヶ嶋酒造	ホワイトオーク あかし	White Oak	ウイスキー	PS	1919	明石市大久保町	清酒の蔵元 1919年にウイスキー免許取得 現設備は1984年に導入した2基の三宅製作所施工の小型ポットスチル 1919年は宝酒造と並んで本リストでは日本最古 江井ヶ嶋酒造は、かつてはガラスびん(一升壇)を自社製造したこともある先進的な会社
兵庫	明石酒類醸造 海峡蒸溜所	波戸崎	Hatozaki	ウイスキー	UK	2017	明石市大蔵八幡	2017年ウイスキー免許取得 海外で「Hatozaki」を販売
兵庫	西山酒造場	モンテオエステ ジン	Monte Oeste Gin	ジン	OT	2019	丹波市市島町中	清酒、焼酎、リキュールの蔵元 2019年ジンを発売
奈良	油長酒造 大和蒸留所	橘花	Kikka	ジン	HB	2019	御所市1160	清酒の蔵元 地区50年の古民家をリノベーションして大和蒸留所竣工、2019年ジンを発売 山本社長が蒸留器を独自設計 500mlステンレスボトルを採用
和歌山	中野BC 富士白蒸留所	檜-KOZUE-	Kozue	ジン	UK	2017	海南市藤白758-	梅酒や清酒の蔵元 2017年ジンを発売
鳥取	松井酒造	倉吉 鳥取 白兎	Kurayoshi Tottori Hakuto	ウイスキー ウイスキー ジン	PS	2016	倉吉市河原町1	2015年4月ウイスキー免許取得 2017年12月、倉吉市馬場町でもウイスキー免許取得、ポットスチルを設置
鳥取	千代むすび酒造	因伯人(Impact)	Impact	ジン	OT	2019	境港市大正町1	清酒の蔵元 2019年ジンを発売
岡山	宮下酒造	独歩 クラフトジン岡山	Doppo	ウイスキー ジン	HB	2012 2016	岡山市中区西川	清酒とクラフトビールの会社 2015年にドイツ製ハイブリッド蒸留器を導入 現在は「ピュアスピリッツ独歩」として販売 2016年に「クラフトジン岡山」発売 2019年に「クラフトウオッカ 晶光」発売

名称（北から県別）		銘柄	Brand (or Company) name	種別	蒸留器	ウイスキー (スピリッツ) 創業年	住所 (部分公開)	コメント
広島	中国醸造	戸河内ウイスキー 桜尾ジン	Togouchi SAKURAO GIN	ウイスキー ジン	OT	UK	廿日市市桜尾1	清酒や焼酎の蔵元 昔からの地ウイスキーブランド 戸河内は原酒樽が貯蔵されるかつて国鉄が試掘したトンネルの名前 2018年よりジンも製造
山口	Neo Blue Distillery	青舞	OrB	ジン	HB	2020	長門市油谷新別	京都・西村酒店の西村氏がオランダに留学してジン造りのディプロマを取得し起業、2020年ジンを発表
徳島	日新酒類	AWA GIN	Awa Gin	ジン	UK	2018	板野郡上板町上	リキュール「すだち酎」の製造元 2018年ジンを発表
高知	菊水酒造	セブンシーズ(ラム) RYOMA(ラム)	Seven Seas Rum RYOMA	ラム (ウイスキー免許取得)	OT	UK ...	安芸市本町4丁	清酒の蔵元 2015年11月ウイスキー免許取得
愛媛	水口酒造	道後ジン	Dougo Gin	ジン	UK	2019	愛媛県松山市道	道後蔵酒(清酒)、道後焼酎、道後ビール、道後サイダー等、地元道後温泉にこだわった商品群を製造 2019年ジンを発表
愛媛	近藤酒造	八八	Pachi Pachi	ジン	OT	2019	新居浜市新須賀	清酒の蔵元 2019年ジンを発表
福岡	福德長酒類 久留米工場	ジン 無銘	Gin Mumei	ジン	UK	2018	岡県久留米市荒	オエノングループ 2018年ジンを発表
大分	三和酒類	WASPIRITS TUMUGI	WAPIRITS TUMUGI	スピリッツ	OT	2015	宇佐市大字山本	焼酎「いいちこ」製造元 「TUMUGI」は麴を使った単式蒸留酒 ポタニカルや樽貯蔵の製品もある (参考情報7)参照 高峰譲吉が1890年にアメリカにわたって麴でバーボンウイスキーを造るプロジェクトを手掛けたのは有名 (参考)現在カナダには麴を利用したライウイスキーがある
熊本	高田酒造場 深田蒸留所	j in j in Gin	j in j in Gin	ジン	UK	2018	球磨郡あさぎり町	焼酎の蔵元 2018年ジンを発表
熊本	山都酒造 山都蒸留所	山都	The Yamato	ウイスキー	UK	2020	上益城郡山都町	焼酎の蔵元 2020年ウイスキーを発表
宮崎	京屋酒造	油津吟 YUZU GIN HINATA	YUZUGIN Yuzu Gin HINATA	ジン	OT	2017	日南市油津2-3	焼酎の蔵元 2017年ジンを発表
宮崎	尾鈴山蒸留所	Osuzu GIN	Osuzu GIN	ジン	HB	2020	児湯郡木城町石	焼酎「中々」「崑六」の製造元である黒木本店の姉妹蔵 2020年ジンを発表
宮崎	櫻の郷酒造	銀鼠 -GINnez-	GINnez	ジン	OT	2020	日南市北郷町銀	焼酎の蔵元 2020年ジンを発表
鹿児島	本坊酒造マルス津貫蒸溜所	マルス、ほか ジン・和美人	Mars et. al. WABIJIN	ウイスキー ジン	PS HB	1949 2016	南さつま市加世日	津貫は焼酎や地酒(九州特有の灰持酒)の製造工場敷地で本坊酒造創業の地 焼酎のかつての連続式蒸留塔も残る 本坊酒造のウイスキー免許取得は1949年 2016年に信州に次ぐ2番目の蒸留所として津貫に三宅製作所のポットスチル蒸留器+イタリアBarisonのハイブリッド蒸留器を新設 信州と合わせると本坊酒造のポットスチルは合計4基 鹿児島にあった初代の蒸留器も津貫に飾られている 本坊酒造は屋久島にもエージングセラーを持つ 和美人はハイブリッド蒸留器でつくったジン、鹿児島のポタニカルを使ったもの
鹿児島	佐多宗二商店	AKAYANE CRAFT GIN	AKAYANE CRAFT GIN	ジン	HB	2008	南九州市頰娃娃町	焼酎「晴耕雨読」製造元 AKAYANEシリーズでジンなど多数のスピリッツを製造 左記のスピリッツ創業年は蒸留器(ドイツの「アーノルド・ホルスタイン」製)導入の年

名称（北から県別）		銘柄	Brand (or Company) name	種別	蒸留器	ウイスキー (スピリッツ) 創業年	住所 (部分公開)	コメント
鹿児島	小正醸造 嘉之助蒸溜所	嘉之助 NEW BORN 嘉之助 NEW POT	KANOSUKE New Born KANOSUKE New Pot	ウイスキー	HB	2018	日置市日吉町	焼酎「小鶴くろ」製造元 吹上浜沿い9,000㎡の敷地に嘉之助蒸溜所を竣工 2018年よりNEW BORN、NEW POTを発売 1基の初溜器と、タイプの異なる2基の 再溜器を備えた珍しい蒸留器
鹿児島	小正醸造 日置蒸留蔵	KOMASA GIN	KOMASA GIN	ジン	UK	2018	日置市日吉町	焼酎「小鶴くろ」製造元 2018年ジンを発売 嘉之助蒸溜所に加えて日置蒸留蔵でも 2020年ウイスキー免許取得
鹿児島	西酒造 下福元蒸留所	尽～tsukusu～	Tsukusu	ジン	UK	UK	日置市吹上町	焼酎「富乃宝山」製造元 2018年ジンを発売 2019年ウイスキー免許も取得
鹿児島	濱田酒造 傳藏院蔵	樹々	Juju	ジン	UK	2018	いちき串木野市	焼酎「海童」製造元 創業150周年に合わせて2018年よりジンを発売
鹿児島	大山甚七商店 宮ヶ浜蒸留所	JIN 7	JIN 7	ジン	UK	2019	指宿市西方468	焼酎の蔵元 2019年ジンを発売
鹿児島	高岡醸造	ルリカケス、ほか	Rurikakesu	ラム	OT	1979	大島郡徳之島町	黒糖焼酎のメーカー 1979年に国内第一号のラム「RURIKAKESU RUM」を発売 一升壇に入ったラムも
鹿児島	若潮酒造	424GIN	424GIN	ジン	OT	2019	志布志市志布志	焼酎の蔵元 2019年ジンを発売
鹿児島	山元酒造	GARAPPA #01 CRAFT GIN	GARAPPA #01 CRAFT GIN	ジン	OT	2020	薩摩川内市五代	焼酎「蔵の神」「さつま五代」製造元 2020年ジンを発売
鹿児島	大隅酒造	エッセンス オブ サントリー ウイスキー	THE ESSENCE of SUNTORY WHISKY	ウイスキー	UK	2020	曾於市大隅町	焼酎の蔵元 2014年よりサントリーグループ 2020年「エッセンス オブ サントリー ウイ スキー」シリーズ第4弾を発売 米を主原料とした「ライスウイスキー」
沖縄	ヘリオス酒造	Helios Rum ウイスキー層	Helios Rum Whisky REKI	ラム ウイスキー	OT	UK (販売再開)	名護市許田405	泡盛メーカー ラム酒製造で1961年に設立 地ウイスキーブーム時代と90年代には台 湾向け「神谷ウイスキー」を製造 2016年に在庫の原酒樽からウイスキーを商品化し てローソン限定で販売
沖縄	瑞穂酒造	Fresh MIZUHO Tropical MIZUHO	Fresh MIZUHO Tropical MIZUHO	ジン	UK	2018	那覇市首里崎山	日本最古の泡盛メーカー 2018年泡盛をベーススピリッツにしたジンを発売 樽は手 作りの琉球グラスを採用
沖縄	グレイスラム	Gor Gor	Grace Rum	ラム	OT	2004	島尻郡南大東村	沖縄電力の社内ベンチャーで金城祐子氏が設立した会社 社長のほかヘリオス酒 造、南大東村なども出資
沖縄	伊江島物産センター・伊江島蒸留所	イエラム サンタマリア	le Rum	ラム	OT	2011	国頭郡伊江村	株式会社伊江島物産センターは伊江村の第三セクター 蒸留設備は2009年までア サヒビールと伊江島などが行っていたバイオエタノール実験プラントの転用
沖縄	まさひろ酒造	まさひろ OKINAWA GIN	Masahiro Okinawa GIN	ジン	OT	2017	糸満市西崎町5	泡盛メーカー ジンのポタニカルには沖縄ならではのゴーヤを使用 2020年ウイスキー免 許取得
沖縄	多良川	マクガン	MAKUGAN	ラム	OT	2019	宮古島市城辺	泡盛メーカー 2020年ラムを発売
沖縄	石川酒造場	ジンジャー クラフトジン	GINGER CRAFT GIN	ラム	OT	2020	中頭郡西原町	泡盛メーカー 2020年ジンを発売

**[参考情報 1] 1980年代の「地ウイスキーブーム時代」に存在した、今はないブランド（上記リスト掲載の「今も続くブランド」を含めると1980年代には20以上のブランドがあった）**

●社名は当時のもので、今は経営主体が変わっている場合、会社が存在しない場合もある。●すべてを網羅していないと思われる。●ウイスキー免許はもつが醸造設備を持たず、ブレンド品を自社ブランドで売る会社も含む。

名称（北から県別）	銘柄	Brand (or Company) name	種別	蒸留器	ウイスキー (スピリッツ) 創業年	住所 (部分公開)	コメント
群馬	美峰酒類	ゴールドカップ、ほか	ウイスキー		UK	高崎市	
埼玉	ローズウイスキー	ローズ・ハミー	ウイスキー		UK	所沢市	
新潟	金升酒造	キンショー	ウイスキー		UK	新発田市	
山梨	モンデ酒造	ロイヤルクリスタル、モン デ、ほか	ウイスキー		UK	笛吹市	
山梨	富士醗酵工業	リリアン	ウイスキー		UK	塩山市	
千葉	合同酒精	ナンバーワン、ネプチュー ン、コルトウイスキー、ほか	ウイスキー		1951	松戸市	
東京	協和醗酵工業	ダイヤモンド	ウイスキー		UK	千代田区	
静岡	東洋醸造	45、ジュピター、パイロン	ウイスキー		UK	伊豆の国市	
静岡	福泉産業	オールドジョウ	ウイスキー		UK	富士市	
愛知	東海発酵工業	ラッキーサン	ウイスキー		UK	名古屋市	
大阪	西川洋酒	キングライオン	ウイスキー		UK	大阪市	
徳島	日新酒類	ヤングセブン	ウイスキー		UK	徳島市	
沖縄	パートン	パートン	ウイスキー		UK	うるま市	
沖縄	クラウン商事	クラウン	ウイスキー		UK	浦添市	

**[参考情報 2] 1960年以降に閉鎖されたウイスキー蒸留所（上記の地ウイスキーブーム時代のブランドとは、あまり関係ないと考えられるもの）**

●社名は当時のもので、今は経営主体が変わっている場合、会社が存在しない場合もある。●すべてを網羅していないと思われる。

名称（北から県別）	銘柄	Brand (or Company) name	種別	蒸留器	ウイスキー (スピリッツ) 創業年	住所 (部分公開)	コメント
福島	大黒葡萄酒→宝酒造の白河蒸留所	キングウイスキー アイデアルウイスキー	ウイスキー		～2003	白河市	元は大黒葡萄酒が1939年に設立した工場 オーシャンの原酒を造っていたかどうかは不明 戦後、占領軍の独占禁止政策にそって、大黒葡萄酒は宝酒造の系列を離れて独立 その影響で白河工場は1947年に宝酒造が買収して白河工場・蒸留所となり「キング ウイスキー」ブランドを生産 2003年に閉鎖、千葉の松戸工場へ移転 1960年ころは、寿屋（サントリー）、ニッカ、大黒葡萄酒（オーシャン）、東洋醸造（レア オールド）、宝酒造（キングー特級、アイデアルー二級の一升壺）が国産ウイスキー主 要5ブランド
埼玉	東亜酒造の羽生蒸留所	ゴールデンホース	ウイスキー		C1980～ 2000	羽生市	1946年の免許取得当初は輸入原酒のブレンドだったが1980年ころポットスチルを設 置、2000年まで蒸留していた 「ゴールデンホース」、COOP向けの「虹の宴」ブランド など 2004年にキング醸造傘下に このとき在庫のウイスキー樽はベンチャーウイスキー の肥土伊知郎氏に引き継がれた
東京	大黒葡萄酒→オーシャンの東京工場	オーシャン	ウイスキー		1946～ 1965?	新宿区	1919年開設の工場 戦災で全焼した東京工場を戦後再建、1946年に蒸留器を設 置 1965年頃から堀詰め中心の工場に 1966年東京工場廃止
神奈川	三楽酒造→三楽オーシャンの川崎工 場	オーシャン サンラック	ウイスキー		1958～ C1980	川崎市	三楽酒造の川崎工場として1935年竣工、1958年からモルトとグリーンを製造 モル ト製造は1961年までで以降は山梨に移管 1962年にオーシャンと合併して三楽オー シャンとなる 1966年にオーシャン東京工場を藤沢工場に・藤沢工場の蒸留器を川 崎工場に移設 1969年に英国マクミラン社のカフェ式連続蒸留器を導入してグリーンウイスキーを製 造 以降、川崎でグリーン、軽井沢でモルトの体制 三楽オーシャンは1985年に三楽 株式会社に、1990年にメルシャンとなった 工場閉鎖は2003年 なお、三楽はオーシャンとは別に、1937年から「サンラック・ウイスキー」を、1959年から 「サンラック・ゴールド・ウイスキー」を販売していた
神奈川	東京醸造の藤沢工場	トミーウイスキー	ウイスキー		～C1960	藤沢市	東京醸造は戦前に混成ウイスキーを造っていた会社だがポットスチルを導入 1937年 に「トミーウイスキー」を発売 1955年倒産 工場は寿屋、ついで森永醸造の手にわ たつたが1960年代に閉鎖 寿屋以降にウイスキー製造に使われたかどうかは不明



山梨	三楽酒造→三楽オーシャンの山梨工場	サンラック		ウイスキー		1961～1969	山梨市	川崎工場だけでは原酒不足になると考えて増設された工場 ステンレス製の初留・再留ポットスチル各1基 三楽オーシャンに合併後は製造は軽井沢に集約
長野	大黒葡萄酒→オーシャン→三楽オーシャン→メルシャンの軽井沢蒸留所	オーシャン 軽井沢		ウイスキー		1955～2011	北佐久郡	オーシャンは大黒葡萄酒時代からのブランド 戦後1946年からオーシャンウイスキーとして発売、本格ウイスキーとしては1954年から サントリー、ニッカと並ぶブランドだった 1961年に大黒葡萄酒からオーシャンに社名変更 軽井沢は元は大黒葡萄酒の軽井沢農園として1936年に設置 蒸留所は1955年から稼働 4基の小型ポットスチルがあった 2011年に閉鎖 1976年から「軽井沢」を販売 市場に残る軽井沢ブランドのウイスキーは1本数十万円と高価 ナンバーワンドリンクス(「京都蒸留所」参照)がいまも海外に輸出
長野	大黒葡萄酒の塩尻工場	オーシャン		ウイスキー		1952～1956	塩尻市	1938年開設の工場 1952年から免許を得てモルトを製造 ポットスチル1基で初留と再留 1956年に軽井沢に製造を移管
兵庫	ニッカウキスキーの西宮蒸留所	ニッカ		ウイスキー		1962～1999	西宮市	1962年に英国ブレア社のカフェ式グレインウイスキー連続蒸留器を導入 アサヒビール西宮工場の隣接地で今もニッカの西宮工場 蒸留器は1999年に宮城へ移設され、現役で使われている
鹿児島	本坊酒造、鹿児島工場	マルス		ウイスキー		1949～1985	鹿児島市	本坊酒造の最初のウイスキー蒸留場所 免許は山梨に、次いで長野に移された 初期の鹿児島蒸留器は現在、津貫に飾られている 現在もモルトオブカゴシマが入手可能

**[参考情報 3] 戦後4年目、1949年に存在した、ウイスキーブランド(「全国酒造家名鑑」(昭和24年11月発行)から、「雑酒」でウイスキーと思われるものを抽出)**

●当時は酒税の категорияに「ウイスキー」がなく「雑酒」に分類されていた。銘柄にウイスキーがついていない場合は推定で抽出し、カテゴリー欄に(ウイスキー)と記した。●住所は当時のもの。●引用文献に寿屋・山崎蒸留所の記載がなく、明らかな欠落と思われるので補記した。

名称 (北から県別)	銘柄	Brand (or Company) name	種別	蒸留器	ウイスキー (スピリッツ) 創業年	住所 (部分公開)	コメント
北海道	大日本果汁(現、ニッカ)	ニッカウキスキー	ウイスキー			余市郡	
北海道	札幌酒精	サッポロウイスキー	ウイスキー			札幌郡と亀田郡	
岩手	濱藤酒造店	ローヤルウイスキー	ウイスキー			盛岡市	
福島	郡山酒造(現、笹の川)	チェリーウイスキー	ウイスキー			郡山市	
福島	寶酒造・白河工場	キングウイスキー	ウイスキー			白河市	
栃木	橋本雄飛太郎	ウイスキーユーブリッチ	ウイスキー			下都賀郡富山村	
群馬	美峰酒類	シティッククラブウイスキー	ウイスキー			高崎市	
新潟	金升酒造	キンショウウイスキー	ウイスキー			北蒲原郡	
千葉	中央酒類	セントラル (ウイスキー)	(ウイスキー)			市川市	
東京	菊美酒精	白鳩ウイスキー	ウイスキー			墨田区向島	
神奈川	大和酒造	イリスウイスキー	ウイスキー			藤沢市大庭	
神奈川	東京醸造	トミモルトウイスキー	ウイスキー			藤沢市藤沢	
神奈川	三楽酒造	サンラック (ウイスキー)	(ウイスキー)			川崎市	
愛知	東海醸造	ラッキーサン (ウイスキー)	(ウイスキー)			西春日井郡	
愛知	廣瀬合名	ゴールドデンビル (ウイスキー)	(ウイスキー)			名古屋市	
愛知	丸中酒造	オールドパシフィック (ウイスキー)	(ウイスキー)			半田市	
静岡	福泉食品工業	ラッキーセブン (ウイスキー)	(ウイスキー)			富士郡	
三重	宮崎由太郎(現、宮崎本店)	ピースウイスキー (ウイスキー)	(ウイスキー)			三重郡	
岐阜	間三吉	サンフジ (ウイスキー)	(ウイスキー)			恵那郡中津川	
岐阜	玉泉堂	ピーク (ウイスキー)	(ウイスキー)			養老郡	
大阪	寿屋	サントリーウイスキー (ウイスキー)	(ウイスキー)			三島郡山崎	
大阪	摂津酒造	金扇? (ウイスキー)	(ウイスキー)			住吉区	
兵庫	西宮酒精	ウイスキー (ウイスキー)	(ウイスキー)			西宮市	
兵庫	第一酒造	アベックウイスキー (ウイスキー)	(ウイスキー)			武庫郡御影町	
岡山	辻本店	ウイスキー (ウイスキー)	(ウイスキー)			真庭郡	
広島	中国酒造	(銘柄不詳) (ウイスキー)	(ウイスキー)			佐伯郡	
山口	日本化業製造・厚狭化成工場	サンウイスキー (ウイスキー)	(ウイスキー)			美祢郡	
長崎	宝酒造・長崎工場	アイダルウイスキー (ウイスキー)	(ウイスキー)			長崎市	
大分	寿屋・大分工場	オールドサントリーウイ スキー	ウイスキー			北海部郡臼杵	

#### [参考情報 4] 第二次世界大戦、直前・直後の日本のウイスキーの状況

- 開戦の年、1939年度(昭和14年3月～15年2月)に製造された県別のウイスキー  
「東京5,900石、大阪3,632石、兵庫1,305石、神奈川1,163石、北海道302石、広島286石、100石以下静岡、福岡、愛知、岡山」(出典:「合同酒精社史(昭和45年刊)」)

東京はオーシャン・東京工場など数社、大阪は寿屋(現、サントリー)・山崎蒸溜所など、兵庫は江井ヶ島酒造など、神奈川は三楽酒造・川崎工場や東京醸造・藤沢工場など、北海道は合同酒精・旭川工場など(ニッカは未発売)、と推定される。それ以下の、広島、静岡、福岡、愛知、岡山の各県にも小規模なウイスキー製造工場があったことになるが、銘柄は不明。合計製造者数は20社程度だと推定。戦中は日本海軍の指定工場(寿屋やニッカ)では大きな需要があったが、それ以外の多くの会社は、特に戦争末期はウイスキー製造を休止したと考えられる。

- 終戦の翌年、1946年頃の状況  
「新たに二十軒を超える酒造会社がウイスキー製造免許を得ていた」(出典:「ヒゲのウヰスキー誕生す」川又一英 初版は1983年)
- 終戦の5年後、1950年頃の状況  
「ウイスキーの輸入は昭和十五年(1940年)を最後に断絶(とだえ)えていた。国産ウイスキーはこの年、寿屋、大日本果汁、東京醸造、三楽酒造など三十数社が製造免許を持っていた(後略)」  
「当時、ウイスキー市場の八割近くは三級ウイスキーで占められていた。三級ウイスキーは税法上<原酒が五パーセント以下、〇パーセントまで入っているもの>と規程されていた。  
〇パーセント、つまりウイスキー原酒が一滴も入っていないとも、税金さえ納めればウイスキーとして堂々と通用した。」(出典:同上)

戦後は占領軍の影響もあってウイスキー需要が高まり、製造者が30数社になった。食料にも困窮する経済環境下で、安価な三級ウイスキー(当時は、一、二、三級の3段階)が最もよく売れた。戦時下と戦後の多くの三級ウイスキーは、購入したアルコールをベースに造られていた。良心的な場合は原酒(輸入できないので、寿屋、大日本果汁、東京醸造、三楽酒造などから購入)をブレンドしていたが、まったく原酒の入っていないものも多々あった。この時代のいくつかの三級ウイスキーブランドは、[参考情報 6] で述べる初期の模造ウイスキーより、さらに模造度合いが高いと考えられる。

#### [参考情報 5] 昭和初期に日本に存在した、大手ブランド以外の本格ウイスキーの事例

清酒「大平山」ブランドの小玉合名(現、小玉醸造)は、「昭和17年、大成酒造として東北初の合成清酒工場を建設した。軍用燃料アルコールやウイスキー製造にも着手した。「ラッキーウイスキー」はポットスチルと椀樽を用いた本格的モルトウイスキーだったが、戦後は種類の生産拡大に伴い清酒に専念」(「上方酒」ばなし(大阪大学総合学術博物館叢書)から) 大手ブランド以外にもポットスチルを導入した酒造家があったことがわかる。

#### [参考情報 6] 明治末期から大正、昭和初期にかけて日本に存在した、模造ウイスキー、混成ウイスキーのブランド

今でいえば「模造(イミテーション)」だが、当時は「合成」や「混成」といわれ、一般的、あるいはむしろ進歩的とされた。多くのブランドが存在したそうですが、ブランド名は調査できていません。たとえば寿屋も山崎蒸溜所(1923年着工)以前、1911年(明治44年)に混成ウイスキー「ヘルメスウイスキー」を発売、また1920年(大正9年)には壺詰めウイスキーハイボール「ウキスタン」(たぶん「ウイスキー炭酸」を短くしたネーミング)を発売していた。1919年、偶々樽詰めで長期保管されていたリキュール用アルコールがまろやかな味になっていることを見つけ「トリスウイスキー」として限定販売したものが好評だったことが、鳥井信治郎のウイスキー製造の動機の一つであったといわれる。日本では終戦後まで、ウイスキーだけでなくワインも清酒も、混成や合成の商品が多かった。「合成清酒」は今も一定の市場規模で残っている。

**[参考情報 7] 竹鶴以前にウイスキーに取り組んだ日本人、高峰譲吉**

竹鶴政孝:大阪高等工業学校(現、阪大工学部)醸造科から、大阪の有力洋酒メーカーの摂津酒造(寿屋の赤玉ポートワインの製造受託もおこなっていた)に就職。当時同社は国産の本格ウイスキーを計画しており、社長の阿部喜兵衛、常務の岩井喜一郎が、技術習得のため竹鶴政孝を1918年にスコットランドに送り出した。竹鶴は、グラスゴー大学で学び、蒸溜所でウイスキー製造を体得して1920年11月帰国。ところが、帰国したとき摂津酒造は経営状況が芳しくなくウイスキー製造を断念。もしそうでなければ、日本初の本格ウイスキーは、寿屋(サントリー)ではなく、摂津酒造だったかもしれない。(摂津酒造は1964年に宝酒造と合併。現、宝酒造醸工場は、摂津酒造の敷地。)

高峰譲吉:タカジアスターゼやアドレナリンの発見者であり、三共(現、第一三共)の初代社長。工部大学校(現、東大工学部)応用化学科を首席で卒業。1880年から英国グラスゴー大学への3年間の留学を経て、農商務省に入省。米国で特許出願した「高峰式元麹改良法」はウイスキー製造に用いるモルト(麦を発芽させてその酵素で糖化する)よりはるかに効率の良い方法で、その技術に目を付けた当時アメリカ最大のウイスキー会社、シカゴのウイスキートラスト社からの招聘を受け、1890年、高峰は米国にわたる。1891年、イリノイ州ピオリア(シカゴから南西200km。当時ウイスキー原酒をほぼ独占的に供給していた街、現在はキャタピラー社の本社があることで有名)に居を構え、試験醸造所で麹による糖化の実証実験を行う。個人として招聘企業に雇用されるのではなく、「Takamine Ferment Company」(タカミネ・ファーマメント社、麹の技術売り物とする会社)を設立して、会社として招聘企業と開発契約した。麹による麦糖化は、実用化の目処がついたが、モルト業者らの執拗な抵抗にあい、不審火によって試験醸造所を焼失。結局この技術は実用されることなく、日の目を見ずに終わっている。

竹鶴と高峰:サントリー山崎の初代工場長(1923年)、ニッカの創業(1934年)、本坊酒造信州工場の蒸留器(1985年)は竹鶴ノートを基に岩井喜一郎が設計したことなど、竹鶴政孝は「日本ウイスキーの始祖」であることは間違えない。一方、高峰譲吉が竹鶴の38年前に同じグラスゴー大学で学び、竹鶴が日本でウイスキーづくりに携わる32年前にアメリカのウイスキー企業で新技術を研究していたことは、日本ウイスキー産業史に記すべきことと考える。高峰はグラスゴー大学時代にウイスキー製造の概要を知り、モルトより麹のほうが効率が良いという着想を得たのだと考える。

余談ながら、現在、カナダのウイスキー(ライ麦のウイスキー)で、麹で糖化した製品がある。法律でウイスキーの糖化法はモルトと定めている日本や英国では実現出来ない方法だが、カナダで高峰の構想が実現した格好だ。さらに余談ながら、高峰の妻キャロラインはアメリカ人、竹鶴の妻リタはイギリス人で、ともに国際結婚。二人の妻は高峰。竹鶴の業績に大きな貢献を果たしている。この国際結婚がなければ、日本のウイスキーや、第一三共はなかったかもしれないと思う。

竹鶴政孝:大阪高等工業学校(現、阪大工学部)醸造科をへて、大阪の有力洋酒メーカーの摂津酒造(寿屋の赤玉ポートワインの製造受託もおこなっていた)に就職。当時同社は国産の本格ウイスキーを計画しており、技術習得のため社長の阿部喜兵衛、常務の岩井喜一郎が、竹鶴政孝を1918年にスコットランドに送り出した。竹鶴は、グラスゴー大学に学びウイスキー製造を体得して1920年11月帰国。帰国したとき摂津酒造は経営状況が芳しくなくウイスキー製造を断念したが、そうでなければ、日本初の本格ウイスキーは、寿屋(サントリー)ではなく、摂津酒造だったかもしれない。(摂津酒造は1964年に宝酒造と合併。現、宝酒造醸工場は、摂津酒造の敷地。)

**ed.2の追加情報 → [参考情報 8] 日本では売られていない、海外で「ジャパニーズ・ウイスキー」として販売されている銘柄**

●海外の店頭やネットで販売が確認できるジャパニーズ・ウイスキーで、2018年～2019年に市場に供給されたと考えられるもの。●すべてを網羅していませんと思われる。●一部の製造者は不記載とした。

主な流通地域	銘柄名・英文	銘柄名・和文 (ラベルに表記のある場合)	製造者	原酒が製造される地域、 または販売者がある地域	ラベル表記の酒 類区分	備考
アメリカ	KIKORI	(ラベル裏の和文に平かなで「きこり」)	---	熊本	whisky	米原料
アメリカ	Ohishi Whisky	大石	---	熊本	whisky	米原料
アメリカ	Fukano Distillery Whisky	深野	---	熊本	whisky	米原料
アメリカ	YAME	八女	---	福岡	whisky	米原料
アメリカ	KAIYO	海洋	Kaiyo Ltd.	大阪	whisky	「ミズナラ樽で熟成」というコンセプト、ラベル記載の製造者は香港
アメリカ	SENSEI	先生	---	山梨	whisky	「ミズナラ樽で熟成」というコンセプト
ヨーロッパ	KARUIZAWA	軽井沢	---	東京	whisky	閉鎖されたメルシャン軽井沢蒸留所の原酒が、今も少しづつボトリングされて、ヨーロッパや中国に供給されている
ヨーロッパ	KAMIKI	神息	Yoshino Spirits	大阪	whisky	「吉野杉の樽で熟成」というコンセプト
ヨーロッパ	Japanese Blended Whisky #1 21 Year Old - Batch 1	倭筭 (日本の常用漢字ではないが、 ネイシエンと読む)	That Boutique-y Whisky Company	英国	whisky	日本のウイスキー原酒をブレンドした商品
ヨーロッパ	MEIYO	名譽	---	沖縄	whisky	輸出用の銘柄
ヨーロッパ	FUYU	冬	---	北海道	whisky	輸出用の銘柄
ヨーロッパ	MEISEI	名聲	江井ヶ嶋酒造	兵庫	whisky	輸出用の銘柄
ヨーロッパ	FUJIMI	不死身	松井酒造	鳥取	whisky	輸出用の銘柄

**大手ブランドの輸出専用モデル**

アメリカ・ヨーロッパ	TOKI	季	サントリー		whisky	
ヨーロッパ	Nikka Days	---	ニッカ		whisky	

●本リスト・資料には不明な項目が多くあります。また抜けや間違いがあるかもしれません。ご存知の情報、お気づきの点などがありましたら、きた産業のコンタクトフォームを使ってご一報ください。

(end of papers)